看護・移乗動作に関する調査研究

小川鎮一、島崎武夫、○守安貴彦（東京電機大学理工学部）
田口ヨウ子、松田たみこ、大久保祐子（自治医科大学看護短期大学）

Investigation of heavy duty for nursing and transferring patient

Koichi OGAWA Takeo SHIMAZAKI ○Takahiko MORIYASU

(Tokyo Denki Univ.)

Youko TAGUCHI Tamiko MATUDA Yuko OKUBO

(Jichi Medical School, School of Nursing)

1. はじめに

今日の社会では、寝たきり、一人暮らしなど要介護老人の増加傾向がみられる社会環境にある。そうした人たちを介護する際、様々な問題が挙げられる。例えば、高齢の介護者の増加、また介護者のほとんどが女性であり、介護用品、介護方法、および福祉制度などの知識不足から身体的・精神的負担を感じている。こうした現状を踏まえ、本報告は日夜、勉学、看護実習に携わっている看護短期大学の学生12名を対象に、アンケート調査を行い看護の中で負担度の高い動作を指摘してもらい、明らかになった事柄について述べる。

2. 負担度の高い動作

ベッドまわりの看護において以下の作業の中で負担度の高いと思われる順位を指摘してもらい、まとめた結果を示す。

- (1) 食事などで患者を抱き起こす動作
- (2) ベッド上で患者を動かす(移動)動作
- (3) 寝ている患者を車椅子に移す(移乗)動作

(1)

12名の解答により、
第三位 (1), (2), (3) の順に
負担が高くなるという
結果が得られた。

(2)

第二位

(3)

第一位

3. 移乗動作

ベッドから車椅子への移乗動作における3パターンを挙げ、それぞれに対し

(1) 負担の高い場面

(2) 困難な場面

(3) 苦痛である場面

およびその理由を指摘してもらいまとめた結果を以下に示す。なお(1)~(3)のうちここでは(1)の負担について取り上げる。図中の折れ線グラフは負担度を示す。

3.1 パターン1について

図1 パターン1

負担度最大：場面1, 3

場面1・・・持ち上げてから患者と看護者との間に距離が開いた状態で患者を支えるため腰に負担がかかる。

場面2・・・腕と腰だけで患者を移動させ、ずり落ちそうになるのを防ぎながら姿勢を変えるため負担がかかる。

場面3・・・患者を中腰で支え患者の全体重が看護者の腰にかかるため、負担がかかる。

場面4・・・看護者は中腰で患者を車椅子に座らせるため、足腰に負担がかかる。

場面5・・・車椅子を考慮し中腰で支えるため足腰に負担がかかる。

場面6・・・腰に力を入れるため、腰に負担がかかる。

場面7・・・患者を持ち上げ手前に寄せるため負担がかかる。

3.2 パターン2について

図2 パターン2
負担度最大：場面4

- 場面1…重病な患者なため自立度があまりなく、中腰で抱き起こす際、支える場所が悪いと看護者はかなりの力が必要となる。
- 場面2…抱き起こす際、患者が横転しないように支え、中腰で移動させるため腰に負担がかかる。
- 場面3…中腰のため、患者の体勢を整えながら座らせるのは困難であり、ときにはかけ声も必要である。
- 場面4…患者の全体重を支え、立位を保持するのに力が必要となる。また患者を支えながら向きを変える準備に入り、バランスよく立たせておかねばならない。
- 場面5…患者の向きを変えている不安定な状態であり、しかも全体重を支えながら体勢を変えるため足を軸にして向きを変えなければならない。
- 場面6…患者を支えながら中腰で移動し、車椅子にうまく乗せられるか不安である。座らせ方によっては患者に嫌な顔をされるため精神的に疲れる。
- 場面7…患者を片手で支え、前傾姿勢となり、この体勢を保持するのは困難であり患者のどこを支えればよいのか分からない。
- 場面8…手前に寄せる際に力を必要とする。

3.3 パターン3について

図3 パターン3
負担度最大：場面6, 7

- 場面1…患者を小さくまとめなくてはならない。
- 場面2…患者の全体重がかかり、腰に負担がかかる。
- 場面3…中腰状態で患者を抱き起こすため腰にかかる負担が大きい。
- 場面4…中腰で患者を支え体勢を整えているため、患者の全体重が看護者に加わりかなり負担となっている。
- 場面5…中腰状態で患者の全体重が加わり体勢を変えねばならないため負担は大きい。また患者の重心移動を考慮しなければならない。
- 場面6…足が床についていない状態で向きを変え、転ばないようにしなければならない。
- 場面7…車椅子を片手で支え、もう一方の手で患者を支えながら座らせねばならない。
- 場面8…背の低い看護者にとっては不利である。

4. まとめ

今回の調査結果によって下記の事が明らかになった。

- (1)1位「車椅子への移乗」
2位「ベッド上の患者移動」
3位「臥位から座位への移動」
の順で負担度は小さくなる。
- (2)調査パターン1～3に示したように患者の全体重が看護者に加わる場面で最も負担は大きい。
- (3)患者および看護者の姿勢が悪い場合に負担は大きい。